



Cisco Catalyst 8000V での AWS ローカルゾーンの設定

AWS ローカルゾーンは、非常に低遅延でアプリケーションを展開および実行できる AWS インフラストラクチャのタイプです。AWS ローカルゾーンは、コンピューティング、ストレージ、データベース、およびその他の選択サービスを物理的に近い場所に配置し、特に人気のあるビジネスゾーンやエリアでアプリケーションを提供できるようにします。

Cisco IOS XE 17.15.1 リリースから、AWS 仮想プライベートクラウドを選択したリージョンでこれらのローカルゾーンに拡張できます。これにより、Cisco Catalyst 8000V インスタンスをデータセンターやブランチのある場所の近くに展開できます。

VPN 終端用の AWS ローカルゾーン

AWS ローカルゾーンは VPN 終端をサポートしていません。これは、オンプレミスの場所とクラウドの間に安全な接続を確立できないことを意味します。Cisco Catalyst 8000V インスタンスを AWS に展開してローカルゾーンを有効にすると、VPN 終端サービスを使用して、サイトからクラウドへのセキュアな VPN を作成できます。

Cisco Catalyst 8000V は、利用可能な IPSec、DMVPN、FlexVPN などの VPN テクノロジーをサポートしています。この仮想ルータは、暗号化標準規格を使用した暗号化も行います。

NAT ゲートウェイ用の AWS ローカルゾーン

NAT ゲートウェイは、VPN 終端と同様に、従来から AWS ローカルゾーンでサポートされていないもう 1 つの機能です。ただし、Cisco Catalyst 8000V で AWS ローカルゾーンを設定すると、NAT 機能を使用できます。

NAT 機能を使用することで、次のことが可能になります。

- 仮想ルーティングによる外部リソースへのアクセス
- NAT で変換されたパブリック IP アドレスを使用した、インターネットからのプライベートアプリケーションサーバーのソフトウェアアップデートのダウンロード
- IP アドレス空間が重複しているサブネット間の接続の提供
- 最大 63K の NAT 変換を可能にする Elastic IP アドレスの設定

- [AWS ローカルゾーンに関する制限事項 \(2 ページ\)](#)
- [Cisco Catalyst 8000V での AWS ローカルゾーンの設定 \(2 ページ\)](#)

AWS ローカルゾーンに関する制限事項

- Cisco Catalyst 8000V では、c5d.2xl および c5.2xl インスタンスタイプをサポートするローカルゾーンのみがサポートされます。
- ローカルゾーンを有効にすると、AWS Cloud OnRamp ソリューションは AWS リージョンでは機能しなくなります。コントローラモードで Cloud OnRamp ソリューションを使用するには、ローカルゾーン機能を無効にします。

Cisco Catalyst 8000V での AWS ローカルゾーンの設定

インスタンスで AWS ローカルゾーンを設定するには、次の手順を実行します。

ローカルゾーンの有効化

手順

-
- ステップ 1 AWS Marketplace にログインします。
 - ステップ 2 EC2 ダッシュボードに移動し、[Account Attributes] の下にある [Zones] をクリックします。
[Local Zones] ページが表示されますが、ほとんどのゾーンはデフォルトで無効になっています。
 - ステップ 3 選択するローカルゾーンをクリックし、[Manage] をクリックします。
 - ステップ 4 [Zone Group] ウィンドウで、[Enabled] ラジオボタンを選択します。
 - ステップ 5 [Update Zone Group] をクリックして、選択したローカルゾーンを有効にします。
-

ローカルゾーンのサブネットの作成

VPC をローカルゾーンに拡張するには、この手順を実行してローカルゾーンのサブネットを作成する必要があります。

手順

-
- ステップ 1 VPC ダッシュボードに移動します。
 - ステップ 2 左側のナビゲーションウィンドウで、[Subnets] をクリックします。

- ステップ3 [サブネットの作成 (Create Subnet)] をクリックします。
- ステップ4 [VPC ID] ドロップダウンリストから、ローカルゾーンに拡張する VPC を選択します。
- ステップ5 [Subnet Settings] エリアで、[Subnet Name] フィールドにサブネットの名前を入力します。
- ステップ6 [Availability Zone] ドロップダウンリストから、有効にしたローカルゾーンを選択します。
- ステップ7 [IPv4 subnet CIDR Block] フィールドで、サブネットの IP アドレスブロックを割り当てます。
- ステップ8 [サブネットの作成 (Create Subnet)] をクリックします。

EC ダッシュボードに戻ると、VPC が、選択したローカルゾーンに拡張されていることが確認できます。

ローカルゾーンでの Cisco Catalyst 8000V の展開

ローカルゾーンでサブネットを作成した後は、ローカルゾーンで EC2 インスタンスを起動する必要があります。詳細な手順を確認するには、「[EC2 コンソールを介したインスタンスの起動](#)」を参照してください。

EC2 インスタンスを起動したら、[Network Settings] で次の設定を行います。

手順

-
- ステップ1 [VPC] ドロップダウンリストから、サブネットを作成した VPC を選択します。
- ステップ2 [Subnet] ドロップダウンリストから、ローカルゾーン用に作成したサブネットを選択します。
- ステップ3 Cisco Catalyst 8000V インスタンスにパブリック IP アドレスを割り当てるか、デプロイメント後に Elastic IP アドレスを接続するには、[Auto-Assign Public IP] ドロップダウンリストから [Enable] を選択します。
- ステップ4 [Launch Instance] をクリックして、インスタンスのローカルゾーンを設定します。
-

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。